

## 【漁況】

### [マアジ]

#### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、1965年の53万トン进行ピークに減少傾向となり、1980年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、1996年には33万トンに増加し、1998年までは30万トン台で推移しましたが、その後再び減少傾向に転じ、2022年は9.9万トンとなりました。

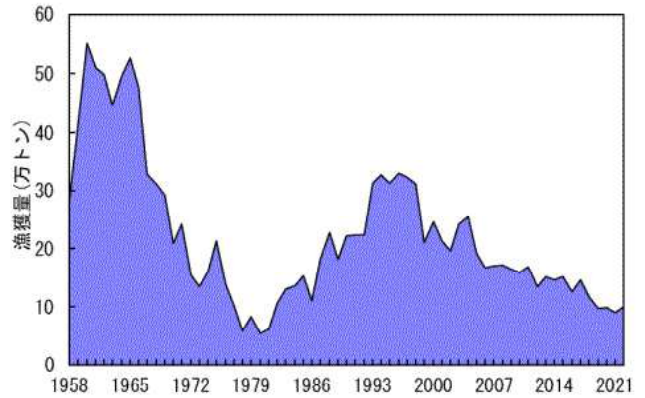


図 全国のマアジ漁獲量の推移

#### 2. 県内の2024年4～6月期の漁況の経過

##### 【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、4月に縄瀬、甑東で豆銘柄（1歳魚：2023年生まれ）、牛深沖で小銘柄（1～2歳魚：2022～2023）、五島下で中銘柄（2歳魚：2022年生まれ）主体の漁場が形成されました。5月には甑東で豆銘柄（1歳魚：2023年生まれ）、五島下で大・中・小・豆銘柄（1～3歳魚：2021～2023年生まれ）主体の漁場が形成されました。

薩南海域では、4月に内之浦沖で豆銘柄（1歳魚：2023年生まれ）、角瀬、立目沖で中小・小・豆銘柄（1～3歳魚：2021～2023年生まれ）主体の漁場が形成されました。5月には甑東、串木野沖で豆銘柄（1歳魚：2023年生まれ）主体の漁場が形成されました。

4港計のまき網では、期全体で968トンの水揚げで、前年比121%、平年比149%でした。

#### 3. 県内の2024年7～9月期の見とおし

漁獲主体：小銘柄未満（0～1歳魚：2023～2024年生まれ）

来遊量：前年，平年を上回る

（根拠）

漁獲主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

2023～2024年生まれが漁獲主体となると予測され、直近の漁模様から、前年，平年を上回ると考えられます。

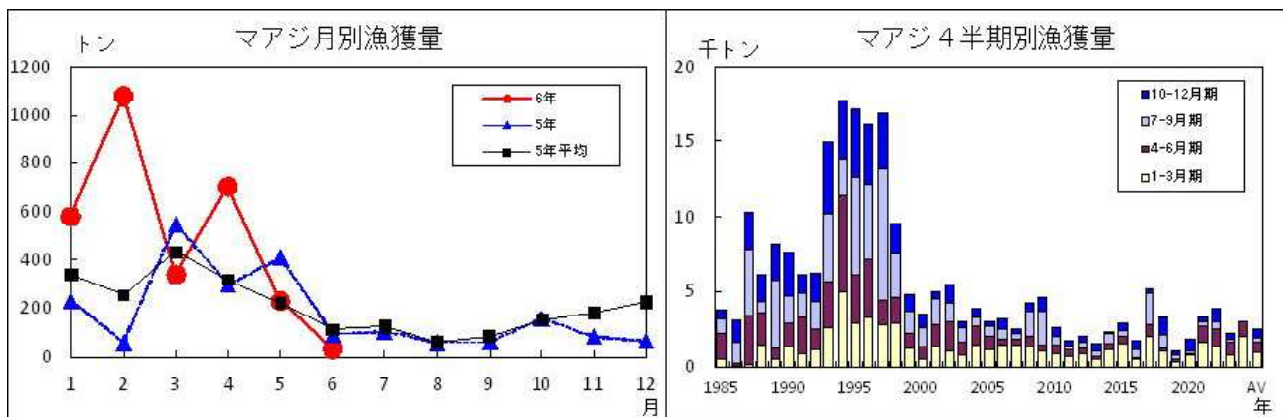


図 マアジまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値(AV)，2024年6月19日までの水揚げ量を使用

## [サバ類]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、1978年の160万トン进行ピークに年々減少し、1991年には26万トンとなりました。

1993年から増加に転じ1997年には85万トンとなりましたが、2002年には28万トンまで減少しました。

2006年に65万トンまで増加したあと減少傾向となり、2022年は32万トンとなりました。

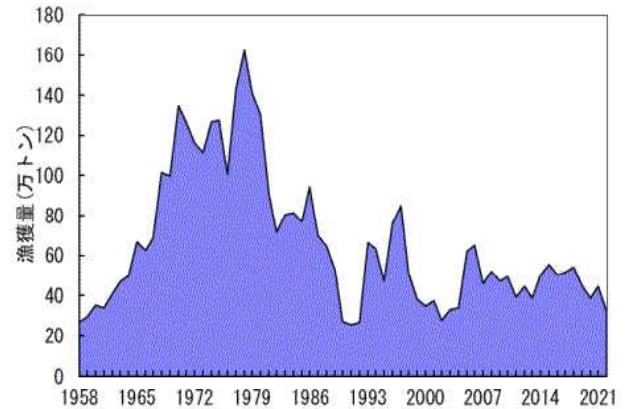


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

### 2. 県内の2024年4～6月期の漁況の経過

#### 【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、4月に五島下で中・小銘柄（1～2歳魚：2022～2023年生まれ）、縄瀬で小銘柄（1歳魚未満：2023年生まれ）主体の漁場が形成されました。5月には五島下で小・豆銘柄（1歳魚以下）主体の漁場が形成されました。

薩南海域では、4月にツクラ瀬、馬毛でゴマサバ中・中小銘柄（1～3歳魚：2021～2023年生まれ）主体の漁場が形成されました。5月にはツクラ瀬、馬毛、湯瀬・梅吉でゴマサバ大・中・中小銘柄（1～3歳魚以上：2021年以前～2023年生まれ）主体の漁場が形成されました。6月には馬毛、屋久島南でゴマサバ中・中小銘柄主体（2～3歳魚：2021～2022年生まれ）、野間池、坊津沖で豆銘柄（1歳魚未満）主体の漁場が形成されました。

4港計のまき網では、期全体で2,711トンの水揚げで、前年比87%、平年比57%でした。

### 3. 県内の2024年7～9月期の見とおし

漁獲主体：ゴマサバ中銘柄未満（0～3歳魚：2021～2024年生まれ）

来遊量：前年を上回り、平年を下回る

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

2021年以降産まれが漁獲主体となると予測され、直近の漁模様から、前年を上回り、平年を下回ると考えられます。

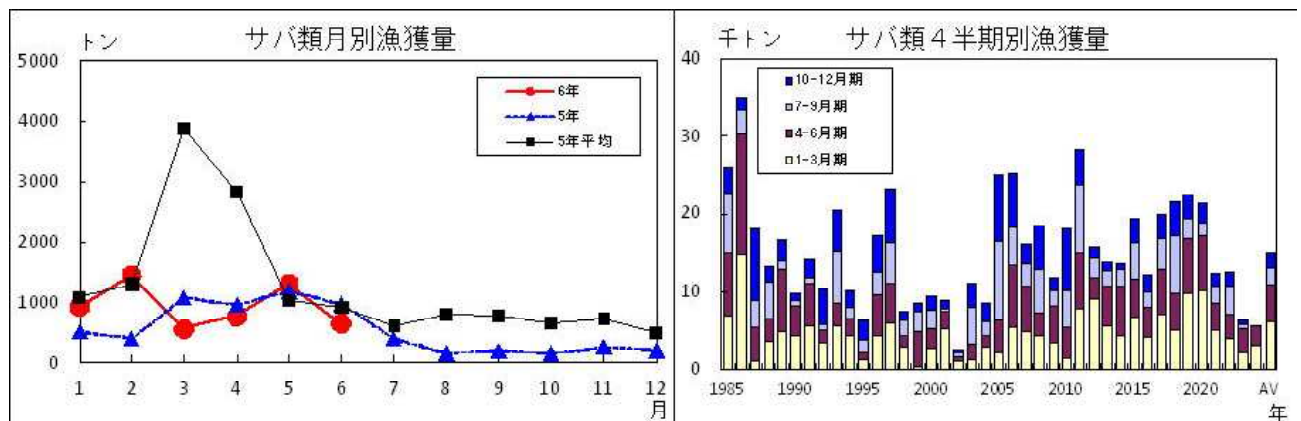


図 サバ類まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値（AV）、2024年6月19日までの水揚げ量を使用

# [マイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、1950年代から1960年代にかけての不漁期の後、1973年頃から増加の傾向が見られ、1988年には449万トンまで増加しました。

1989年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、2002～10年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、2011年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに、2013年以降は20万トンを超える漁獲が続き、2022年は64万2千トンとなりました。

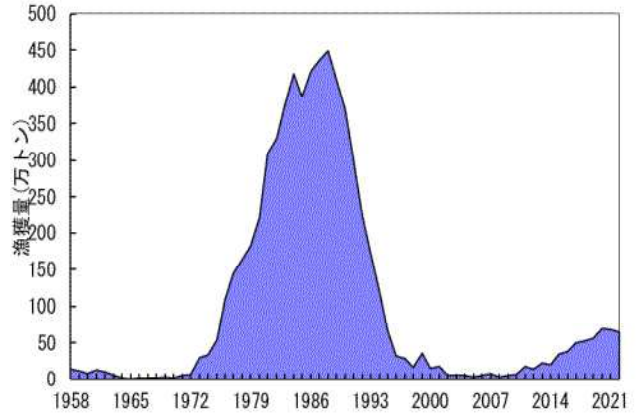


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

## 2. 県内の2024年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、4月に天草沖、縄瀬、甕東、阿久根沖、串木野沖で漁場が形成されました。5月には天草沖、縄瀬で漁場が形成されました。6月には天草沖、串木野沖で漁場が形成されました。

薩南海域では、まとまった漁場が形成されませんでした。

4港計のまき網では、4,392トンの水揚げで前年比1384%、平年比4583%でした。北薩海域の棒受網では、26トンの水揚げで前年比28%、平年の61%でした。

## 3. 県内の2024年7～9月期の見とおし

漁獲主体：小～中羽銘柄（0歳魚：2024年生まれ）主体

来遊量：前年，平年を上回る

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過から予測しました。

2024年産まれが漁獲主体となると予測され、直近の親魚の漁模様から、前年，平年を上回ると考えられます。

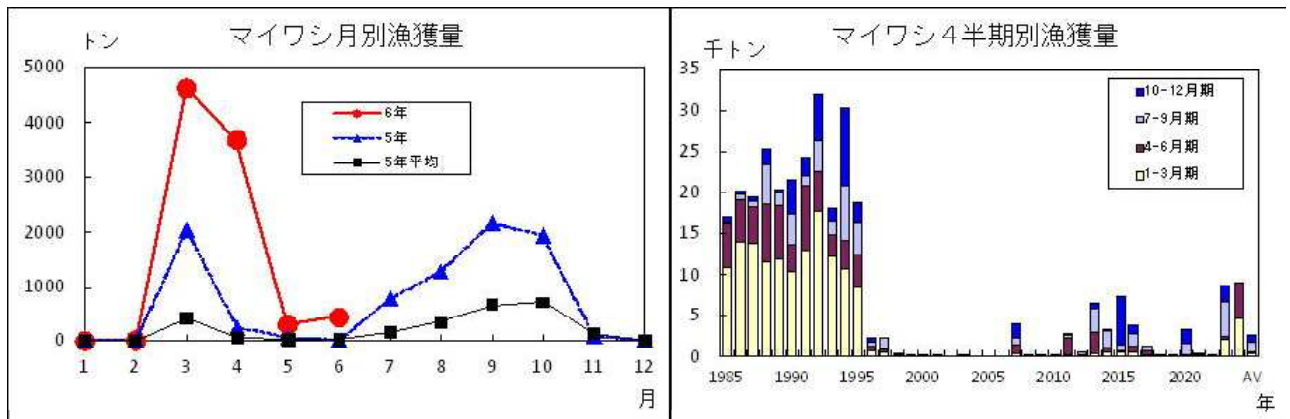


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)，2024年6月19日までの水揚量を使用

# [ウルメイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、1950年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、1994年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ2000年には2万4千トンまで減少しました。

2003年以降は再度増加傾向に転じ、2016年は9万8千トンで1958年以降では最高の漁獲量となりました。

2022年の漁獲量は6万4千トンとなりました。

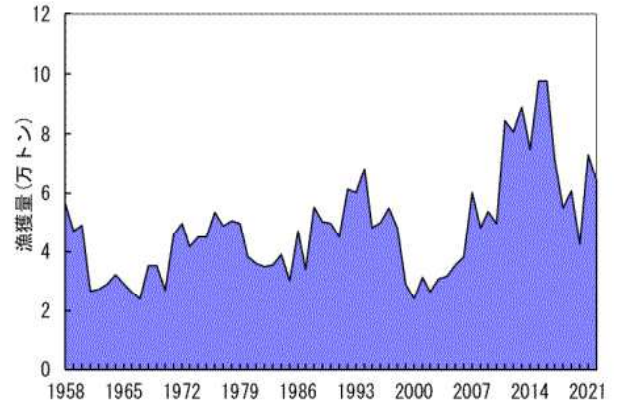


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

## 2. 県内の2024年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網ではまとまった漁場が形成されませんでした。

薩南海域のまき網では、5月に枕崎沖で漁場が形成されました。6月には野間池沖、坊津沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、619トンの水揚げで、前年比153%、平年の168%でした。

北薩海域の棒受網では、18トンの水揚げで、前年比17%、平年比19%でした。

## 3. 県内の2024年7～9月期の見とおし

漁獲主体：中～大羽銘柄（0～1歳魚：2023～2024年生まれ）

来遊量：前年，平年を上回る

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

2023～2024年産まれが漁獲主体となると予測され、直近の漁模様から、前年，平年を上回ると考えられます。

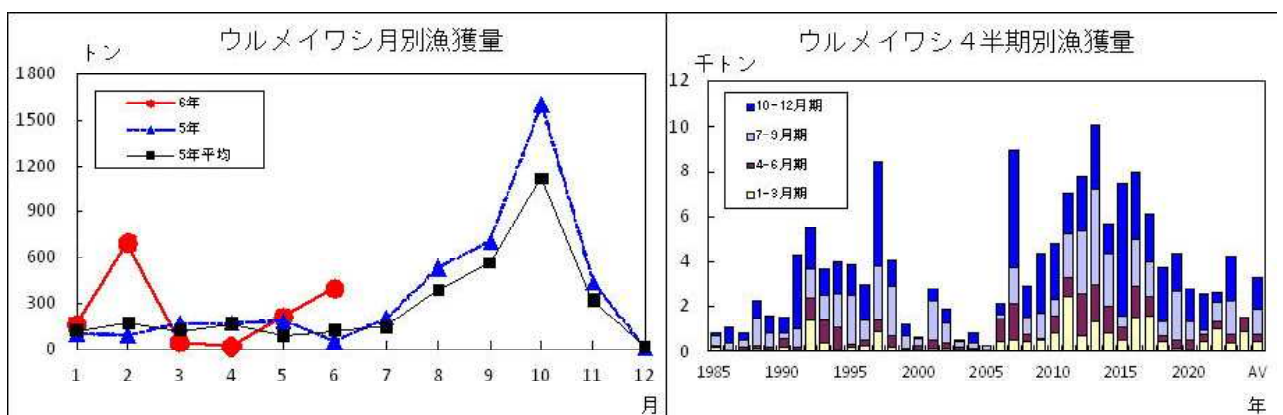


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値(AV)，2024年6月19日までの水揚げ量を使用

# [カタクチイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、1973年まで30万トン台で変動していましたが、1974年以降減少傾向となり1979年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、2003年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、2022年は12万3千トンとなりました。

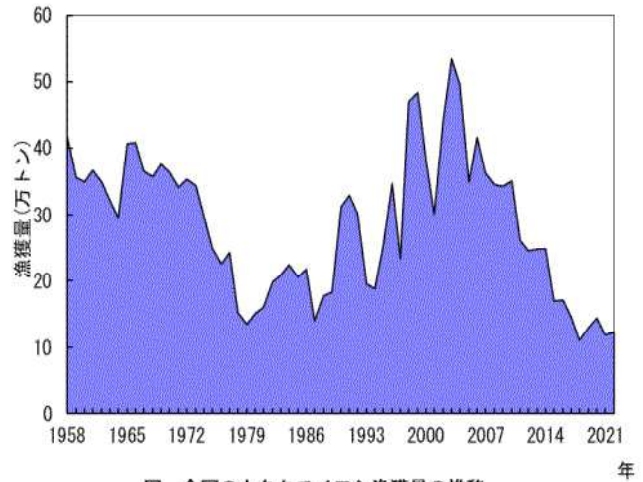


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

## 2. 県内の2024年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、5月に東町沖で漁場が形成されました。6月には甑東で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、まとまった漁場が形成されませんでした。

4港計のまき網では、144トンの水揚げで、前年比45%、平年比27%でした。

北薩海域の棒受網では、85トンの水揚げで、前年比41%、平年比54%でした。

## 3. 県内の2024年7～9月期の見とおし

漁獲主体：小～中羽（0歳魚：2024年生まれ）

来遊量：前年を下回り、平年並み

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

2024年産まれが漁獲主体となると予測され、直近の漁模様から、前年を下回り、平年並みと考えられます。

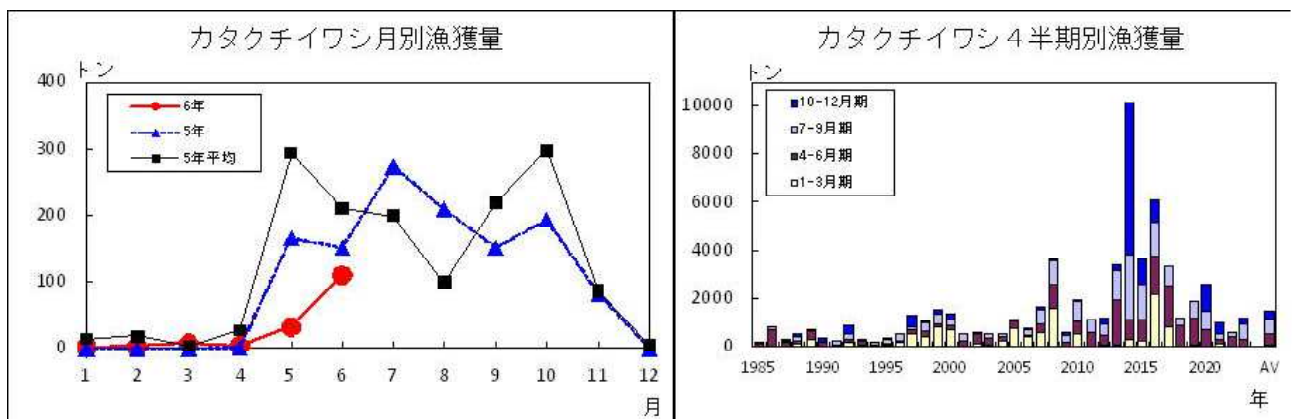


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2024年6月19日までの水揚げ量を使用

[イワシ類参考資料]

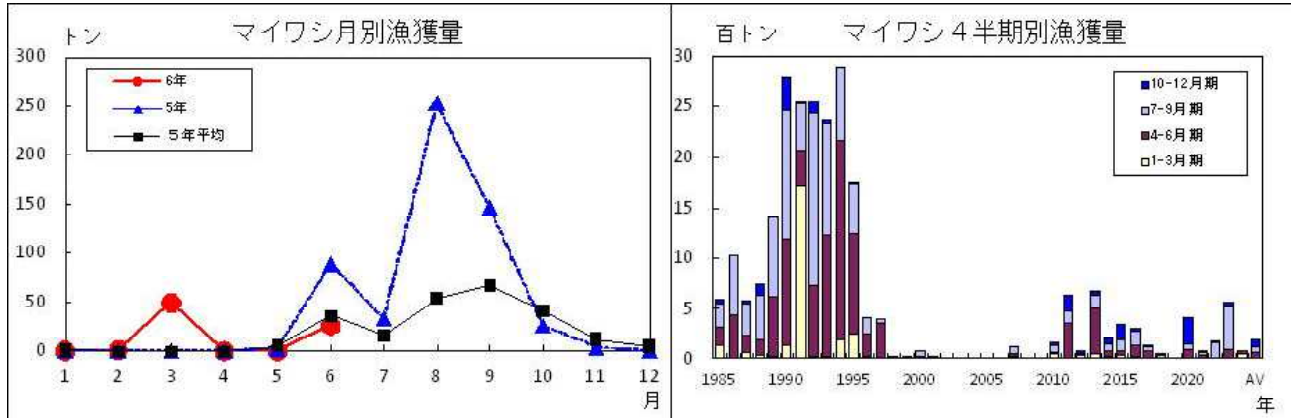


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

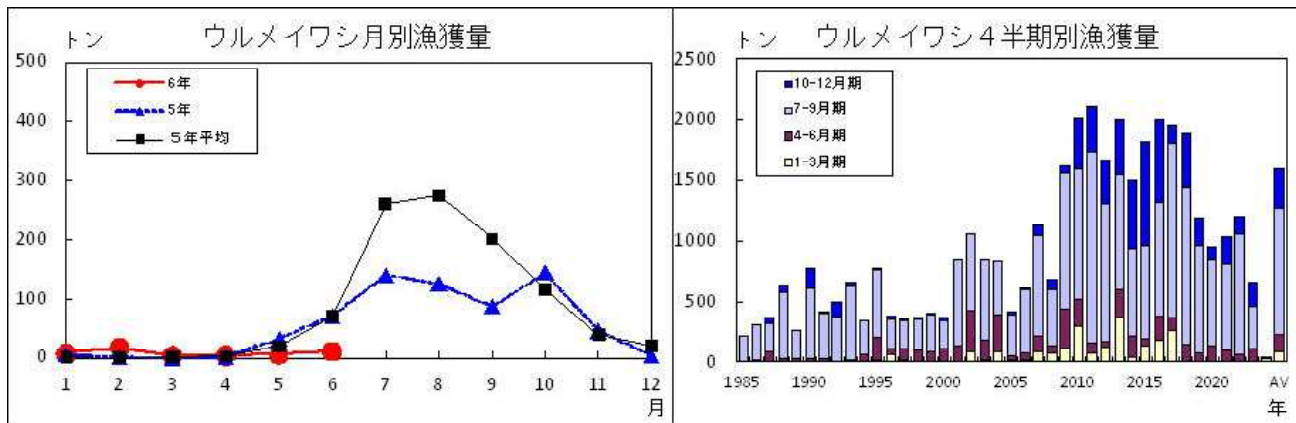


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

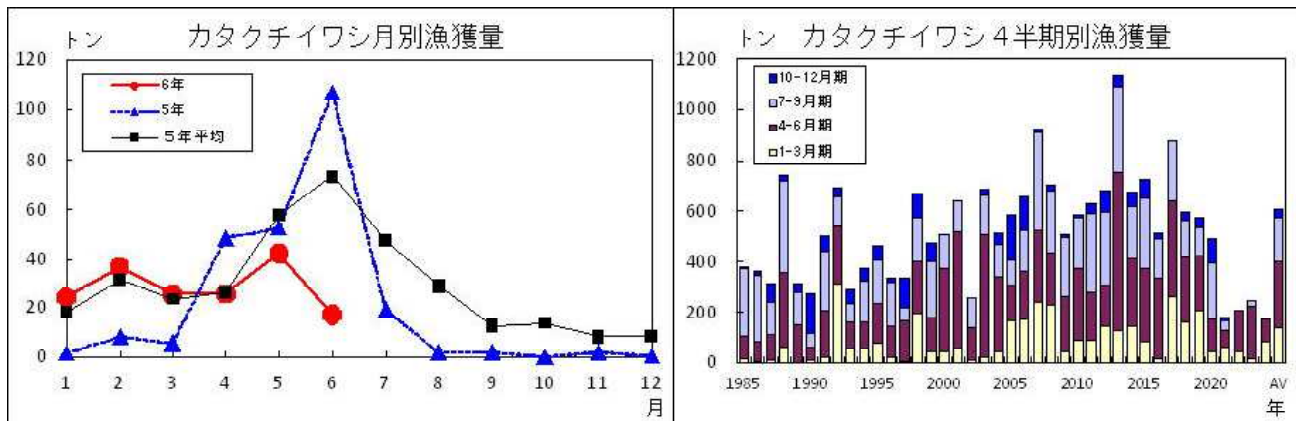


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年の平均値(AV), 2024年6月19日までの水揚量を使用

## [ムロアジ類（参考：漁況経過のみ記載）]

〈クサヤモロ，ムロアジ，モロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

### 1. 経年経過

ムロアジ類の漁獲量は，1990年の21,700トンピークに急減し，1994年以降は1,500トンから5,000トンの間での推移しており，2023年は1,964トンとなりました。

### 2. 県内の2024年4～6月期の漁況の経過

4港計のまき網では，6月に臥蛇島でクサヤモロ小主体の漁場が形成されました。期全体で150トンの水揚げで，前年比80%，平年比36%でした。

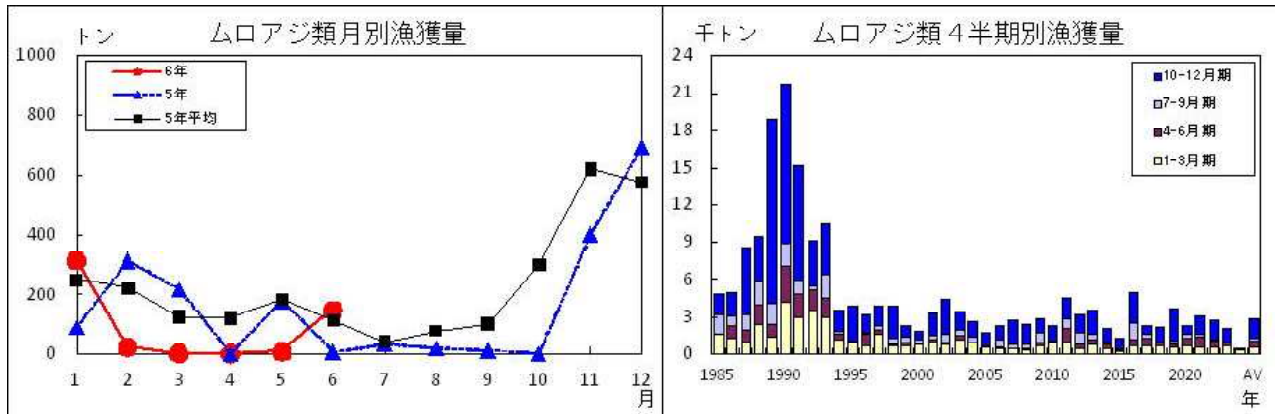


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

### 1. 経年経過

オアカムロの漁獲量は，1989年の5,300トンピークに一旦減少し，1995年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となり，2007年には700トンとなりました。2008年に2,300トンまで増加した後は700～2,400トンの間で推移し，2023年は353トンでした。

### 2. 県内の2024年4～6月期の漁況の経過

まとまった漁場は形成されませんでした。期全体で16トンの水揚げで，前年比73%，平年比7%でした。

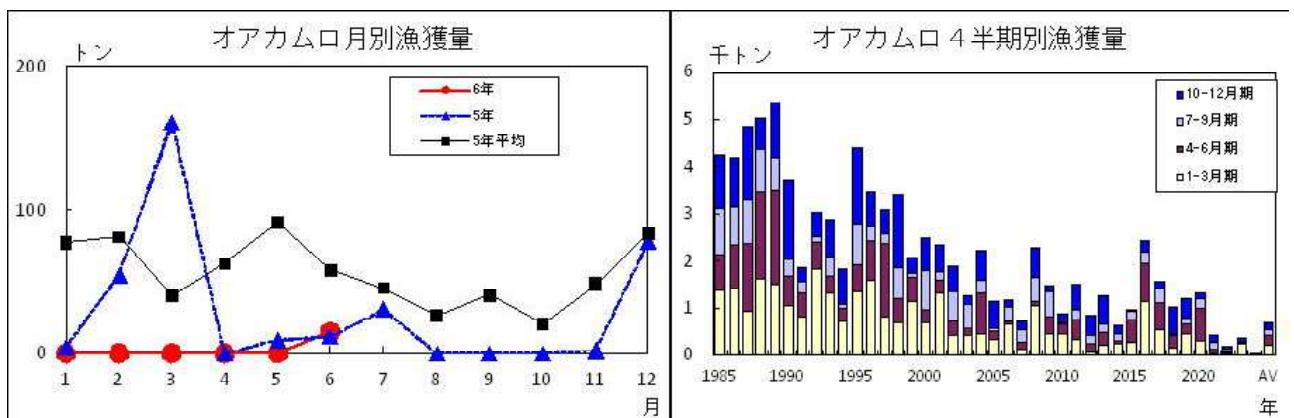


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年経過

マルアジの漁獲量は、1987年から1989年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、2000年から2003年に再度ピークを迎え2003年には3,150トンと最高を記録しましたが、2004年以降は低調に推移し、2022年は115トンとなりました。

2. 県内の2024年4～6月期の漁況の経過

まとまった漁場は形成されませんでした。期全体で24トンの水揚げで、前年比56%、平年比40%でした。

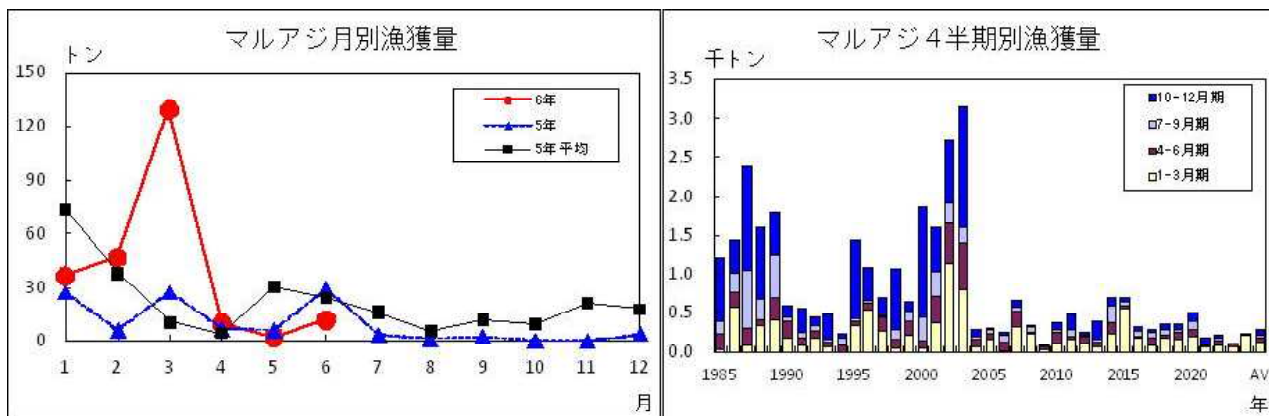


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値(AV)，2024年6月19日までの水揚げ量を使用